

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500058		
法人名	社会福祉法人 値賀の里		
事業所名	グループホーム 暖家		
所在地	長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷2698-1		
自己評価作成日	令和6年9月10日	外部評価結果確定日	令和7年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&JigyosyoCd=4291500058-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和6年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホールは天井が高く開放的な造りになっている。玄関を出ると目の前には青い海が広がり、佐世保や福岡を結ぶフェリーが港を出入りする様子も見られる。遠くには五島列島の島々を望め、美しい朝日を拝むことも出来る。
基本理念である『笑顔のたえない楽しく暖かい家』を念頭に置き、その実現に向けて職員は協力し努力している。
地域柄、ご利用者様、ご家族、地域の方、職員が知り合いや顔馴染みであることも多く、親しみやすい雰囲気となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

チームでつくる介護計画とモニタリングでは、計画作成に当たって、ご家族がなかなか参加できていない。暖家における、ご利用者様の様子を伝えたい思いから、毎月一人ひとりのご家族宛てに施設だよりを発行している。報告内容として①収支一覧表②苦情窓口一覧③お知らせという事項で、お知らせ欄については手書きによる一か月の行事、生活の様子を作成しており、心温まる報告である。耳の不自由なご利用者様にはイラストを用いて伝え、避難訓練に参加してもらう事や、本人の居室前にイラストを掲示しており、緊急の場合に対応できるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員で話し合っって作った理念を掲示し共有、確認できるようにしている。地域の方々との触れ合いは感染症対策が継続中であるため出来ていないが、職員は笑顔で接し、明るい雰囲気でご利用者様が過ごせるよう努めている。	笑顔の絶えない楽しく暖かい家、その人らしさを大切にゆっくりとした、自由な生活、おどかの皆さんとふれあい、助け合い、支えあう安心できる暮らしを基本理念としている。職員同士では、常に笑顔を合言葉に対応している。新入職員には基本理念と職員心得を渡し理念を理解の上ご利用者様の介護に対応している。特にレクリエーションでは、体操、ぬり絵、風船バレー、ドライブ等でご利用者様のニーズに応えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策が継続中であるため外出や交流が制限されている。ご利用者様との直接の触れ合いはないものの、繋がりは途切れることなく続いている。	感染症対策が継続中であるため外出や地域との交流が制限されているが、地域のお祭りや行事に職員が参加して写真や動画を撮影してご利用者様に楽しんでもらっている。自治会には加入していないものの、町からの広報誌等を地域の役員の方が届けてくれており、地域とのつきあいは良い関係となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策が継続中であるため話し合いや意見交換は行えていない。養寿園会議室を使用して対面での開催を検討中。	感染症対策が継続中であるため、書面会議による運営推進会議の開催をせざるを得ない状況にある。議事内容も暖家からの報告が主な内容となっている。作成された議事録は、ボランティアや地域老人クラブへ郵送している。今後は感染状況を見ながら、関連施設の会議室を利用して対面の会議としたいと考えている。	運営推進会議の開催はおおよそ二か月に1回の開催が定められている。現在、法人の感染対策の方針の一環として書面回覧方式を採用している。どうしても多方面からの意見及び情報収集が困難とのことであったため、改善する1つの案として関連施設の広い会議室を利用して、出席者が密にならないよう配慮した形での開催の検討を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小値賀町で定期的に行われている地域ケア会議に参加し地域の課題を共有している。「値賀の里だより」で法人の実践状況を発信している。	運営推進会議の他に小値賀町で定期的に行われている「地域ケア会議」に参加している。他の事業所における問題や悩み事などを共有して暖家の運営に活かしている。行政担当者への報告では、骨折入院、コロナ発生状況に加え人材不足の状況についても報告している。空き状況については、ケアマネジャーを通じて報告し町担当者へにも伝わるようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回「身体拘束・虐待防止委員会」を開催し実例を元に話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事務所には、理念、運営方針、職員心得、身体拘束廃止宣言を掲示し、職員全員で身体拘束をしないという決意を示している。身体拘束とは認識しないままの支援を見つけた場合は、すぐに注意して適正な支援を指導している。三か月に一度の身体拘束、虐待防止委員会は原則正規職員全員の参加で行われている。参加出来なかったパート職員については後日、口頭や委員会資料を渡し、周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会において、どのような行為が虐待になるか確認し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定や重要事項説明書等を用いて説明し、納得・理解が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは、面会時、電話連絡時、ケアプラン更新時等が主な機会となっている。「暖家だより」を個々に送付しており、その中で意見や要望を出して頂くよう働きかけている。	ご利用者様のご家族へ毎月「暖家だより」を個々にコメントを作成して郵送し、ご家族のご意見を集積するようにしている。ご利用者の暖家における様子がよくわかる等と感謝の言葉が確認出来た。要望では自分で身の回りのことができるようにとか、家事の手伝いをして自信をもって過ごして欲しいとの意見があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や処遇会議等で意見を聞くよう努めている。出された意見は理事長へ報告している。	毎月、処遇会議を10日、職員会議を25日に開催しており、身体拘束・虐待防止委員会も25日に開催している。職員へ発言を促す手段として「いつでも、どんな時でも話すように促している。職員から希望について、慢性的な人材不足解消のため調理専門職員を雇用し、ご利用者様の見守りも行っている。勤務表作成に当たっては、原則希望日を叶える形で作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の際に必要な費用の負担、有する資格に応じた手当の支給など向上心を持って働けるよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	島外の研修会への参加は困難な状況が続いている。オンラインや町内での研修には出来る限り参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症対策が継続中であるため、交流は自粛している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔で接し、困ったことや不安に思うことを言いやすい雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に感じていること、要望等は契約や面談の際に聞くようにしている。ご家族の顔見知りの職員がいる場合は担当にし、気軽に意見や要望が言えるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービスを必要としているのか話を聞き、暖家で出来ること、出来ないことを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自室や洗面台の掃除、洗濯物を干したり畳んだり等の家事を出来る範囲で手伝って頂いており、助かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を制限していたり、外出や外泊が出来ない状態が続いている。「暖家だより」で様子を報告したりテレビ電話で会話したりと関わりを持って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策が継続中であるため外出や交流は制限されている。	感染症対策が継続中、関係継続の支援はかなり厳しいものがある。暖家としては対策の一貫として手指消毒の徹底や抗原キットの購入などの対策を行っている。ドライブ時においてご利用者様の自宅付近まで行ったりして思い出に耽る時がある。今後は、感染状況を見ながら、まずは面会の緩和に向けて検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に家事やレクリエーションを行って交流を図っている。食後の下膳を手伝ったり、落ち着いた様子の方に声を掛けたりと支え合う姿がみられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ地域の住民としての関係は続いており、会えば挨拶を交わしたり近況を尋ねたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様同士や職員との会話から希望を把握したり、行動や表情から汲み取るよう努めている。検討は処遇会議で行っている。	思いや意向の把握については入所前の情報収集の段階でまずはご家族から行うようにしている。暖家での生活が始まり、時間の経過と共にあまり好まないかなと思っていたことが実は好きなことであったりと、事前情報だけではなく、実際の会話等の中で得られる情報が多くあるとのこと。また、意思の疎通が困難なご利用者様は今のところいないが、表情や仕草、目の動き、声のトーン等、普段よく観察していないとわからないようなちょっとした変化から汲み取るように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族、在宅のケアマネ等から生活歴や暮らし方、サービス利用の経過を伺っている。近所の方だったり、入所前から知っている場合もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子を介護支援経過記録や各種チェック表、申し送りノートで共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様それぞれに担当があり、モニタリングを行っている。職員で話し合いをし、プランの見直しを行っている。ご家族は会議に参加されておらず意見や要望は取り入れられていない。	計画書作成時にご利用者様の生活を第一に考えて立案するようにしている。新しく入所した際は生活になれることを最優先して関わりを多く持つ等、入所してどれくらい経過しているのかという時系列においても着眼点を変えている。更新の際はご家族に意向の確認するが「お任せします」という返答が多いため、暖家ではできるだけご利用者様の普段の様子を詳しく書き添えた暖家だよりを毎月送付して状況を伝える工夫を持続的に行っている。計画書の内容については職員が定期的な話し合いの場を持ち、情報共有しながら支援にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、各種チェック表、申し送りノート等を活用し、現状把握、共有しながら実践や介護計画の見直しに生かせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍以前は要望に応じて外出・外泊の支援や冠婚葬祭の付き添い、ご家族の送迎など行っていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は踊りや演奏等のボランティアを受け入れ楽しんでいただいていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	島内には医療機関が一か所しかないため入所後も主治医が変わることなく、継続して診て頂いている。必要に応じて診療所に月1回来所する整形外科や循環器内科等の専門外来を受診している。診察の結果は電話や暖家だよりで報告している。	島内に1ヶ所しか診療所がないため必然的に入所後も同じかかりつけ医の診察を受けることとなっている。島内の診療所へは職員が付き添って普段の様子や、バイタル値等を伝えて受診支援をしている。一方、島外の医療機関へはご家族の協力を得ながら受診することとなっている。薬の管理は職員が一元的に実施しており、サプリメントを服用しているご利用者様は、飲み合わせ等主治医に相談しながら支援しているとのことであった。	
31		介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	暖家には看護師がいなかったため体調が変化した場合には診療所に連絡し、早めに受診するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療所の医師や看護師から病状や状況、退院の目途等の情報を得ている。退院後の注意点等の支持も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ要望に沿うよう努めているが、暖家では医療行為等出来ないことがあることを説明している。	基本的に入所の契約の時点で看取りや重度化した際の説明を行うようにしている。暖家では医療行為が実施できないため、常時医療行為が必要な状態になったら診療所に移行することや、重度化した場合は入浴設備の整っている施設を紹介することもあるとのことである。但し、最大限ご利用者様やご家族の意向に沿いながら話し合いの中で方針を決めているとのことであった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2022年から年2回、消防署主催で普通救命講習が実施されており、全職員が受講する計画になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	夜間想定避難訓練をご利用者様と一緒に実施している。地域の方や養寿園との合同訓練は感染症対策が継続中であるため中断しているが、協力体制は築いている。毎日火気関係のチェック、戸締りの確認を行っている。	毎年2回火災発生を想定した訓練を定期的に行っていることを記録から確認した。万が一に備えて地域住民との協力体制も整えていて、近隣に所在する同法人の職員や運営推進会議のメンバー等が駆けつけてくれることとなっている。備蓄の状況は、倉庫内に3日分ご利用者様と出勤しているであろう職員数を確保していることを視認した。今後に備えて自然災害発生を想定した訓練の実施が望まれる。	自然災害発生を予測した訓練の実施が至っていないとのことであった。11月に小値賀町内で津波発生時の想定訓練があるとのことなので、この機会を契機として定期的な実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	強い口調にならないよう言葉遣いに注意している。居室に入室する際やトイレ誘導時にはプライバシーや羞恥心に配慮している。	職員の数が少なくなる時間帯になると、どうしても忙しさあまりに声掛けが少しくなったりする可能性があるようなので、管理者はゆとりをもって仕事に挑むようその都度伝えたり、職員会議の場で全体的に促しているとのことであった。管理者はできていない部分ばかり見るのではなく、職員の対応方法や声掛けについて「いいね」を今以上に伝えるようにしていく方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表しやすいような声掛けや、待つ姿勢で自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間になれば声掛けはしているが、起床や就寝、食事の時間等出来るだけ一人一人のペースに合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選べる方はご本人に任せ、困難な場合はその人らしい服装を職員が選んでいる。新年祝賀会や敬老祝賀会等の行事にはおしゃれをして参加するように支援している。コロナ禍以前は行きつけの美容室や洋服を買いに出掛けていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で採れた旬の野菜や海産物をメニューに取り入れている。お正月やひな祭り、クリスマス等イベントに沿ったメニューを提供している。ごまをすったり、そら豆をさやから出したり、出来る事をやっています。	食事を楽しむ取組みとしては、野菜の下ごしらえ等、職員と一緒にできることをご利用者様にしてもらったり、敷地内の屋外のスペースでお昼ご飯を食べたりと、現状でできることをご利用者様に提案しながら行っている。その他、食事ではないが気候の良い時は外気浴をしながらおやつを外で食べたりして気分転換を図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定を毎月5日に実施。食事摂取量や水分摂取量をチェック表を用いて把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の状況に応じて声掛けや介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いてパターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。使用するパット等の大きさや形状を細かく話し合い、その人に合った支援に努めている。	排せつ支援については基本的に排せつチェック表をベースにして、頻度や間隔・量等を総合的に確認しながら日々の支援にあたっている。できるだけ排せつはご利用者様の尊厳を守るという観点から、特に配慮して支援にあたっている。日中の自立した活動を優先するという観点から、吸収力の強いパットを使って睡眠を優先しているご利用者様の支援内容について話を聴くことができた。夜間に数回オムツ交換で覚醒させてしまうと睡眠の質が落ちて日中の活動に影響があるため、職員間で話し合いご家族の合意の下、睡眠を優先した支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分量が1000ml以上になるよう食事以外でもこまめに勧めたり、リハビリ体操等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯、回数は決まっているが、ご本人が望まない時は時間をずらすなど対応している。最初から最後まで1対1で対応している。羞恥心に配慮しながらゆっくり入浴して頂いている。	入浴については基本的に週に2回実施するようになっている。曜日はおおよそ振り分けであるが、ご利用様が入りたくない場合は次の日に入浴したりと、柔軟に予定を変えるようにしている。個室であるためご利用様はゆっくりと職員と話をしたりして、暖家での楽しみの1つとなっている。また、入浴剤やお正月にゆず湯にする等アクセントを付けながら入浴を楽しむことのできる支援を続けている。現在のところ、入浴拒否のある方はいないとのことではあるが、このような方がいた場合でも柔軟に色々と試行錯誤を重ねていくことであった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は使い慣れたものを持参して頂いている。日中でも疲労感や眠気が強い時等、臥床時間を設けているが昼夜逆転しないようレクや日光浴への参加を促している。眠れない方は医師と相談し眠剤を服用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をまとめてファイルし、薬の種類や用法・用量がすぐに確認できるようにしている。内服薬の変更や臨時薬の処方があった場合は申し送りノートで共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課だったお墓やお寺へのお参りは現在も自粛中。ドライブの途中で車内から手を合わせるに留めている。レクや日光浴で気分転換を図っている。ご利用者様の状態に合わせて家事を手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策が継続中であるため、外出は自粛している。ドライブで季節の花を見たり、自宅付近を回ったりしている。	法人の方針として感染症対策が講じられているため、日常的に外出することができない状態である。このような中でも桜や紫陽花等の花見に行ったり、短時間ではあるがドライブに行ったりと、人と接点がない場所への外出を適宜行うようにしている。頻繁に外出できる状況ではないが、気候の良い時は敷地内のスペースで外気浴や日光浴を実施して気分転換を図る取組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物にも出掛けられておらず、お金は預かり事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは行っていないが、贈り物が届いた時や希望時に電話を掛けたり、テレビ電話で顔を見ながら会話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひな人形やクリスマスツリー等を飾り、季節を感じて頂けるよう工夫している。玄関から外を眺められるように椅子やベンチを置いている。	広々とした平屋のスペースの一角にご利用者が主に過ごすソファや食事を囲むテーブルが設置してある。窓が多く大きいため採光は申し分ない。また天窓からも同様に明るい雰囲気の一助となっている。感染症の予防策として換気や通気は当然のこと、定期的に消毒をしたり温湿度計をこまめに確認して調整している。雨が強い時は声が聞き取りにくくなるくらい音がしたり、西日が強い時は不快に感じる場合もあるため、職員は気がけて対応をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とソファに座って会話したり、少し離れて椅子に座ったり、思い思いに過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた馴染みのある家具や食器を持参して頂いている。ご家族の写真を飾ったり、御位牌を持って来られた方には希望により毎朝お茶や御仏飯を上げている。	持ち込みの品に関しては特に危険が伴わないものであれば制限はないとのことであった。訪問調査の際、訪室の許可が取れている数名の居室を見せてもらったが、荷物は多くなく、誕生日に暖家から贈呈された色紙や、ご家族の写真等が飾られている部屋が多数であった。毎日モップ掛けをしているせいかとても清潔な印象を覚えた。居室内のベッド等の配置については、基本的に職員がご利用様の心身の状況に合わせて実施するようにしている。転倒のリスクが高まった場合は、職員皆で話し合っって動線の確保を行う等対策を講じている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に表札を付けているが、迷う方にはトイレや自室の場所を大きな文字で貼り紙をし、ご自身で移動出来るよう工夫している。必要に応じてセンサーマットやポータブルトイレを設置し、転倒を予防している。		